

新年のご挨拶

主任児童指導員 有吉 博史

謹んで新春をお祝い申し上げます。

旧年中は大変にお世話になり、誠にありがとうございました。

ご承知の通り、昨年、令和二年の初めから新型コロナウイルスが、発見され、これまでに経験したことのない流行となりました。五月には、緊急事態宣言が発出されたため、当院におきましても一時的に面会の禁止、療育支援を中止する事態となりました。利用者様、ご家族の皆様におかれましては、大変ご不便をおかけいたしました。みなさまのご協力のもと、面会再開、療育活動も段階的に再開することができました。本当に有難うございました。コロナ禍が長く続き療育内容についても院外療育やグループ療育、エアロゾルがおこりやすいカラオケなどを中止し、個別療育へと切り替えて支援を行いました。行事については、居室訪問にて少しでも季節感や非日常感を感じていただけるよう創意工夫をしながら実施しました。居室訪問のため、みんなで集まって楽しい雰囲気味わうことは難しいですが、年齢に応じた内容に少しずつ変更して実施したり、五感で感じていただける内容にしたりするなどして少しの間ではありますが楽しんでいただけたと思います。回数を重ねるごとに自信を持って支援をすることが出来るようになりました。まだまだ、以前の様な世の中になったらと考えることがありますが、今できることをしっかりと考えると共に、試行錯誤しながら新しいことにも色々チャレンジ

していきたいと考えています。

療育指導室の児童指導員・保育士は福祉の専門職としての知識や技術を高めるために、引き続き研鑽を積み重ねていきたいと考えます。今後も皆さまが安心して生活できると共に、たくさん笑って過ごしていただけるよう努力して参りますので、引き続きご指導を賜りますようお願いいたします。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を祈ると共に、皆さまのご健康とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

秋行事

児童指導員 仲村かれん

十一月十七日から十九日、秋行事を行いました。「わたしともみじと虫の音と～みんなちがってみんないい～」をテーマに、紅葉や文学、虫の音を通して、秋の季節を感じながら過ごしていただきました。

オレンジや黄緑など、紅葉をイメージした洋服を着た職員が各居室を訪問しました。紅葉で彩った傘やオーガンジーを「きれい」、「かわいい」と言いながら見てくださった方や、落ち葉の音を、目を閉じてじっくり聴いていらっしゃる方、みなさん思い思いに秋を感じられていました。紅葉狩りを楽しみながら秋行事のテーマにもなっている、金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」の詩や色々な和歌を朗読して文学の秋を感じ、お月見では、ウサギの餅つきを思い浮かべ楽しそうに参加されている方もおられ、楽しく穏やかな時間を過ごすことができたのではないかと思います。最後は、「夜明けをくちずさめたら」の曲を大切な人や大好きな人に想いを馳せながら聴きました。

今年は新型コロナウイルス感染症対策のため外出自粛になり、多くのみなさんが大好きな方と気軽に会うことができなくなり、さみしい思いをされていることと思います。いつか隣で話し、笑いあって過ごせる日を迎えられるようにと願いを込めた秋行事となりました。



お楽しみ会

保育士 久保田あゆみ

十二月九日、十日、十六日の三日間でお楽しみ会を各病棟で行いました。毎年デイルームに集まって、出し物をみたりゲームをしたりしていましたが、今年は訪問の形で一部屋ずつを巡回しました。各病棟、サンタクロースからのプレゼント渡しやダンスの披露、クリスマスソングの演奏など楽しい企画を考えました。看護師の皆さんも一緒に参加して、利用者の皆さんの笑顔がたくさん見ることができました。最後には、ミニクリスマスツリーの点灯式で締めくくり、イルミネーションの幻想的な雰囲気にとりされる方もおられました。今年、コロナ禍の中、いろいろなことがいつも通りにいかないことが多い年でしたが、今年最後の行事で、利用者みなさんと楽しい時間を過ごせたことを嬉しく思います。また来年も良い年になるように皆で願いました



ハロウィンロード

児童指導員 上田祐希菜

令和二年九月二十八日から十一月十五日まで、療育訓練室の一部を装飾し、ハロウィンロードを実施しました。主には、院外療育に代わる院内散歩で使用していただき、また、普段の療育活動や散歩時にも活用していただきました。

照明を消すとブラックライトでハロウィンロードが光り、お化け屋敷のような雰囲気も感じていただけたのではないかと思います。

利用者さんからは、「少し怖かった」や「蜘蛛が案外かわいかった」、「ハロウィンの季節になったのね」など、色々なご感想や反応をいただきました。普段の日常とは少し違う気分を味わっていただけていると幸いに思います。



クリスマスロード

児童指導員 石田和寛

冬にちなんだ催し物を利用者のみなさまにお届けしようと療育訓練室の一角に、十一月十六日から十二月二十五日まで「クリスマスイルミネーション」を療育指導室の職員で作成しました。部屋を暗くし、イルミネーションの輝く一つひとつの光をみて、利用者の方からは、「きれい」や「またこの時期になったね」等々の言葉が聞かれました。また、不織布で巨大靴下を作成し、その中にプレゼントボックスや長靴等のオーナメントを入れました。それを利用者や職員が手にしてクリスマスツリーにみたてた療育訓練室の柱に飾り付けると、イルミネーションが更に光り引き立ちました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、一病棟ごとの参加となりましたが、利用者の方には笑顔で喜んでもらえて良かったです。



二〇二一年どんな年？

児童指導員 田山地孝国

二〇二一年今年の干支は“丑年”です。十二支には、植物が循環する様子を表しています。“丑”は十二支の二番目、つまり、子年に蒔いた種が目を出して成長する時期とされているそうです。また、“牛”は昔から酪農や農業で人間を助け、大変な農作業も最後まで手伝ってくれるという大切な動物でもあります。そういったことから、“丑年”には、「努力」「我慢」「これから発展する前触れ」といった意味があるそうです。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により我慢の年となってしまいましたが、今年は、“丑”の由来どおりに世界中の人々が蒔いた種が芽吹き、地道に前に進むことができる年になることを願います。

特別支援学校祭 作品出展

保育士 坂本 春菜

今年度の特別支援学校祭は十月三十日に開催されました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、利用者のみなさんと一緒に作品展を見に行くことはできませんでしたが、あゆみ病棟・若葉病棟からはたくさんの方が作品を出展してくださいました。

どの作品も療育の思い出がつまった素敵なものでした。児童・生徒のみなさんにも芸術の秋を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。



デジタル面会

保育士 目次 愛香

慢性病棟の面会体制の変更にもない、十二月一日よりタブレットを利用した「デジタル面会」が開始されました。初めての試みで、利用者、ご家族とも新鮮な様子で参加されていました。利用者は画面に映るご家族や成年後見人の姿を見て画面に手を伸ばしたり、声掛けに返事をされたり、会話をしたりと、柔らかい表情や優しい声を伝え合う温かな様子が見られました。

私たち職員も利用者のご家族、成年後見人の皆様との貴重な時間を大切に持てるよう、一生懸命支援に努めてまいります。



～ お知らせ ～



○ 職員紹介

名前； 石川裕加里 保育士（1若葉病棟担当）

出身地； 山口県 特技； 縫い物 好きなこと・もの； 刺繍とゲーム

ひとこと；皆さんと早く仲良くなれるように頑張ります！よろしくお願ひします。

○ 療育予定

3月10日 「 特別療育 」